

17「深い学び」を視点とした授業改善の実践

意見をつなげ読み深めていく国語の学習



👉 **こんな実践**

『スイミー』の学習においてスイミーの気持ちを読み深めていく場面で、子供たちの意見の違いを聞き、位置づけていくことで、子供たちの意見がつながり、よりびったりな言葉が見つかっていった実践です。

実践学校 A小学校

実践学年 2学年

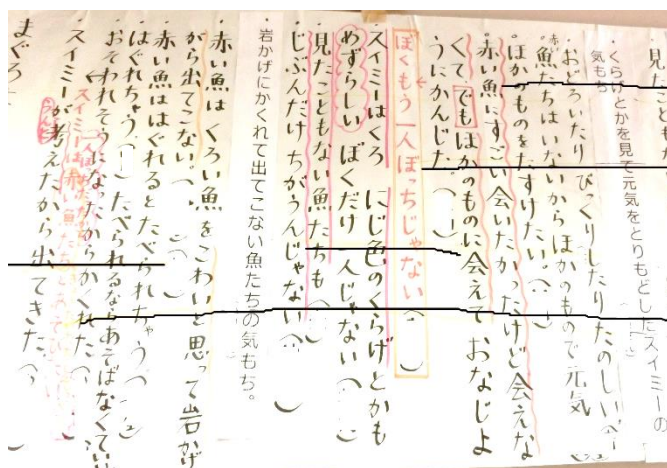
実践時期 6月

単元名 『スイミー』をよく読んで、友だちの意見を聞いて考えよう！

学習指導要領との関連 国語科 国語科 読むこと カ 話すこと聞くこと オ

○読み深める楽しさを目指して

物語の叙述を基に、登場人物の気持ちを読み取れるようになってきた2年生に、さらに、物語を読み深める楽しさを感じてほしいと願いました。そのためには、仲間と一緒に読み、考え、伝え合うことで、自分だけでは気づけなかったことに気づけるようにと、「1ぴきだけ黒いスイミーの気持ち」「1ぴきだけにげたスイミーの気持ち」など子供たちから出た「みんなで考えたいこと」から学習問題を設定しました。



考えたことを話し合う中で、場面を越えてつながりを見つけた発言があれば、黄色いマーカーでつなげ、その場面だけの読み取りにならないようにしました。

また、他の場面とのつながりや友達のとつながりや意識して読むために、学習したことを模造紙に書いて毎時間つなげていきました。

○つなげて考える楽しさを味わう

場面を読み進めていくにつれて、叙述とつなげたり、友達のとつながりや意識して読むために、学習したことを模造紙に書いて毎時間つなげていきました。

「くらげとかを見て元気をとりもどしたスイミーはどんな気持ちだったか」を考える場面では、それまで読み取ったこととつなげて考える意見が自然と出てきました。

A さん「赤い魚にすごい会いたかったけど会えなくて、でも、ほかのものに会えて
同じように感じた。」

B さん「あっ。わかった。」「ぼくもう一人ぼっちじゃない。」

T 「ああ。1ぴきだけにげたの場面につながるんだね。」

A さん「さっきのにつけたしで、スイミーは一人だけ黒くて、にじ色のくらげとか
 もめずらしくて、ぼくだけ一人じゃない。」

T 「はじめの1ぴきだけ黒にもつながるんだ。」


C さん「ぼくもわかった。言いたい！」
「じぶんだけちがうんじゃない。」

「同じように感じたこと」の内容を自分で考えている

友達の意見から、「同じように感じたこと」を具体的な言葉で深めている

_____のように、A さんが「同じように感じた」と発言したことをきっかけとして、それぞれに、「何と何が同じなのか」を関連付ける思考が始まっています。その中で、赤い魚にすごく会いたかった前の場面とつなげて考え「一人ぼっちじゃない」という新たな読みが子供の中から出てきました。それが、A さんの1ぴきだけ黒でめずらしいスイミーについて考えた場面とつなげ、さらに明確な言葉としての表現につながりました。更にCさんはそれをヒントに、自分だけが人と違うのではない、人と違っても一人ぼっちではないと、1ぴきだけ黒く速かったために一人ぼっちになったスイミーが元気を取り戻した気持ちに迫っていきました。

このように、途中まででも自分の言葉で表現したことを、教師が位置づけたり問い返したりすることで、その意見を友達がつなげ、深めたり広げたりし、それを聞いて自分の考えがさらにはっきりしたり、他の場面と関連させて考えられたりという学習へとつながっていきました。このような経験が「みんなで学ぶとおもしろい発見がある」と仲間のよさを実感し、主体的・対話的な学びにもつながっていくと考えます。

 **ここがポイント!**

子供の発言を全体の追究に生かすためには次のことが大切です。

- ・つなげる意図を持って、意見を位置付けたり、問い返したりする。
- ・Aさんの意見－Bさんの意見，意見－既習の学習，意見－叙述 等
- ・教師が言葉の違いにこだわり、子供の考えや思いに寄り添って聞く。

まとめ

場面と場面を関連付けて読んだり、他者の読みと関連付けたりすることは、場面の様子に着目して、登場人物の気持ちを想像し、自分の読みを創り上げていくことにつながります。また、言葉と言葉の関係や、言葉の意味・働き方等に注目して考え、言葉による見方・考え方を育てていくことにもつながります。